

金子みすゞの
「こころをうたう」
大西進・作曲

清水正美コンサート

みんなちがって みんないい

金子みすゞの
わかりやすく
情感あふれる言葉を
美しいメロディに
のせて歌う
清水正美のステージ

プログラムは
金子みすゞの512作品の中から、
集いのねらいや対象年齢、季節などに
あわせて構成します。
皆さんのご要望の曲にもお応えできます。

公演時間 50〜80分

曲目例

- 私と小鳥と鈴と 積った雪
- 大漁 粉雪
- どんぐり こころ
- 明るい方へ 星とたんぼぼ
- みんなを好きに このみち
- 学校へ行くみち さよなら

編成

- A 基本編成：5人
清水正美／ピアノ／ヴァイオリン／音響／制作
- B ホール公演など：7人
清水正美／ピアノ／ヴァイオリン／音響／照明／制作
- C 小規模公演：4人
清水正美／ピアノ／音響／制作



明るい方へ

明るい方へ
明るい方へ

一つの葉でも
陽の洩るところへ。

藪かげの草は。

明るい方へ
明るい方へ

翅は焦げよと
灯のあるところへ。

夜飛ぶ蟲は。

明るい方へ
明るい方へ

一分もひろく

日の射すところへ。

都會に住む子等は。



- 子どもたちも参加できます。
私と小鳥と鈴と
簡単な手話も覚えてもらって、一部、
一緒に手話をつけながら歌います。
大漁、明るい方へ など
詩の朗読を子どもたちにもお願いする
ことも取り組んでいます。
- ピアノやヴァイオリンなどの
演奏を入れることができます。
ピアニスト、ヴァイオリニストは第一線で活躍中の
演奏家と組んでいます。
- 子どもたちの情操を育てる、
音楽や国語の授業とリンクさせての
鑑賞教室に是非ご検討ください。
世田谷区立代田小学校では、「美しい日本語週間」の
行事の一つとして公演させていただきました。

金子みすゞの詩以外の曲も
ご希望に応じてプログラムに
組むことが可能です。

子どもたちにもおなじみの曲から

曲目例

- ドレミのうた (ミュージカル「サウンドミュージック」より)
- 手のひらを太陽に (やなせたかし詞／いずみたく曲)
- Believe (杉本竜一詞・曲)
- 君をのせて (アニメ「天空の城ラピュタ」より)
- 世界にひとつだけの花 (植原敬之詞曲)
- 千の風になつて (新井満詞曲)

高学年向け

- コンドルは飛んでいく (フォルクローレより)
- 夜明けまで踊りたい (ミュージカル「マイフェアレディ」より)
- 旅立ちの日に (小嶋登詞／坂本浩美曲)
- 手紙 (ファンジエラ・アキ詞曲)
- 夢路より (フォスター)
- 歌の翼に (メンデルスゾーン)

みすゞ全詩の 作曲にとりくんで

作曲家 大西 進

金子みすゞの全詩に作曲するということは、まず
最初に思うことは「一人の詩人が生涯かけて創作し
たその「軌跡」をたどること」です。童謡を書こう
と決めた日からみすゞさんは、体験を自らたどるよ
うに、またもう一人の心の中のみすゞに問いかける
ように書き進んだのです。二つ目はいっぱい思いう
かぶことの中から何を書こうかと考える時、直接目
にふれるもの「出会う」人や、雀や、魚や、雲や、空
やそのすべての「在(あ)るもの」「いのちあるも
の」になりきって、そこから見つけた思いを削れる
だけ削り、短い言葉で書いたのです。そして最後の
二行いや最後の一行、さらにはそれさえもはぶい
て、結論を広い宇宙へなげだすかのように書いたの
です。三つ目は人生さまざま生き方を選ぶチャン
ス分れ道の点に立ったとき「これから降る雪はどれ
がお好き」と(雪に)問いかけ決断をうながすので
す。その三つ目の視点は作曲する上で共通するの
です。この詩は読まれるためのものなのに、どんな作
曲が一番この詩に合うのかと何通りものメロディ、
リズムの中から作曲者として「これだ」というもの
をさぐりあて五線に写します。童謡でありながら多
くの大人の心をとらえるのみすゞの詩、だからこ
そ、三世代でまた家族で口ずさめるものにしたとい
作曲します。

いくつかの学校で私の「みすゞ」がうたわれると
き、また高齢者の方々が好んで歌われるとき、そ
うたごえを聞いて、私自身の人生に大きなはげみと
なるなにかが燃え上がるのは、人としての「基盤」
が共通だという思いです。

「そこに山があるから登る」というように、512
をつくりきる数だけのことでなく、今を生きる人間と
して、共に考え生きていきたい希いなのです。

Kaneko Misuzu 金子みすゞ ●プロフィール



金子みすゞ(かねこみすゞ)本名金子テル。明治36
(1903)年、山口県大津郡仙崎村(今の長門市)に生まれ
る。大正末期から昭和の初期に、すぐれた作品を発表し、
西條八十に「若き童謡詩人の巨星」と称賛されながら、昭
和5(1930)年、26歳の若さで世を去った。

没後その作品は散逸し、幻の童謡詩人と語りつがれる
ばかりとなったが、童謡詩人・矢崎節夫の長年の努力によ
り童謡512編を納めた遺稿集が見つかり、金子みすゞ
全集(JULA出版局)として出版された。そのやさしさに
貫かれた詩句の数々は、今確実に人々の心に広がり始
めている。

1903	4月11日、山口県大津郡仙崎通村(現長門市)にて父 明治36年 金子庄之介、母ミチの長女として生まれる。本名テル。
1905	2月23日、弟正佑生まれる。
1906	父、清国營口にて死去。金子家は仙崎にて書店を営む。
1907	正佑、上山文英堂店主、上山松蔵と養子縁組。
1916	13才、郡立大津高等女学校入学。
(大正5年)	校友誌「ミサヲ」に「ゆき」発表。
1919	母ミチ、上山松蔵と再婚。
1923	20才、テルは下関市の母のもとに移り、義父上山松 蔵の上山文英堂で働き始める。
	ペンネーム「みすゞ」で童謡詩を書き、雑誌に投稿を 始める。以降1928年までに56編を発表する。
1925	童謡詩人会(西条八十、北原白秋と謝野晶子、野口雨 情ら)発起。
1926	23才、2月、結婚。
	みすゞ、童謡詩人会に入会。11月、長女ふさえ誕生。
1930	26才、2月27日、離婚。 3月10日、上山文英堂内に死去。